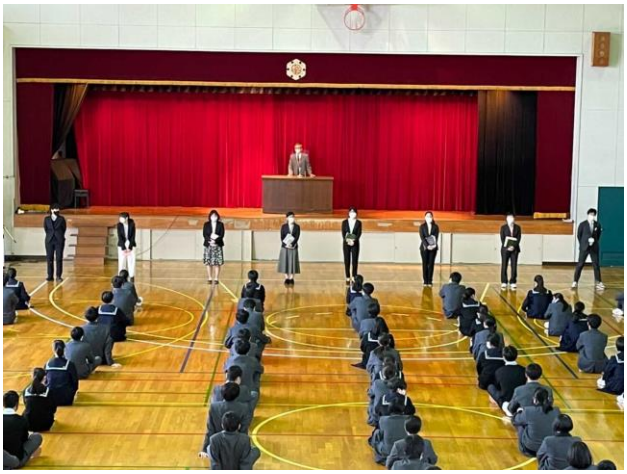
令和3年度 4月発行
学校法人松蔭学園
松蔭大学附属
松蔭中学校・高等学校
校 長　川下 進

学校だより

HP：http://www.shoin.ed.jp/　　Blog：http://www.shoin.ed.jp/category/information/

～何より“意志”を持つこと～

川 下 進 校長



４月８日始業式での１枚

最近，「75 歳」という年齢が注目されています。定年を 70 歳とし、希望者を 75 歳まで働ける社会をといった議論もあります。その是非はともかく、平均寿命などの伸長を考えると、今の中学生・高校生は 75 歳まで働く可能性は高いと考えられます。

現状、コロナ禍によって企業の業績が伸び悩む中で「終身雇用制」が崩れ、一つの会社で 40 年以上永年勤続できるとは考えにくいでしょう。

そうすると、必要になってくるのは「方向・方針を変える力」や「再び立ち上がる力」です。所属や環境が変わっても、その中で自分らしさを活かせる方策を見つけて、幸せに暮らしていく力、「自分はどこででも生きていかれるという確信」と難局を乗り越えていくたくましさが、今後ますます必要になると思います。

それでは、そのようなたくましさはどうすれば身に付くのでしょうか。
学校はしばしばリスクを避けて先回りして教えがちです。保護者はわが子が道に迷わないようにあらゆる手立てを講じます。

しかし予測不能な時代を迎えた今日、生徒各自には自分なりの目的地を定め、そこに「行きたい」と願う強い“意志“を持つことが何より求められます。“意志“さえあれば例え一時道を失っても、何とかたどり着く方法を見出すはずです。

“意志”は中学・高校時代に、何に出会うか、何に打ち込めるか、そして好きなことに夢中になった経験を通して育っていきます。

私たち教員は、一人ひとりの生徒が望みや“意志”が生じるのを辛抱強く待ち、好きなことに本気で打ち込める機会を設け応援するよう常に心掛けています。

～進路資料室をつかってみませんか？～

受験指導部より

受験指導部より進路資料室のご紹介です。2号館2階（体育館への通路の手前）にある進路資料室には、大学・短大・専門学校のパンフレットはもちろん、受験に役立つ受験情報誌などが閲覧できます。また、入試の過去問題集（通称：赤本）も多数そろえています。赤本は貸し出しも行っていますので、受験生はもちろん、学年問わず足を運んでみてください。

進路資料室の入り口には、大学パンフレットがズラリと並んでいます。もちろん、自由に閲覧可です！

進路資料室の中には、専門学校の資料が、分野別に整理されているので、簡単に目的の資料を探せます！

大学入試問題過去問（通称：赤本）や受験情報誌も多数取り揃えています。赤本は、貸し出しも行っていますので、気になる大学の過去問に気軽に挑戦しよう！

～松蔭学園創立記念日～

来る４月18日（日）は、本校創立80周年記念日です。学校は日曜日で休みになりますが、学園誕生に思いを馳せ、創設者松浦昇平先生のご苦労と遺徳を偲び、松蔭学園の生徒であることを改めてしっかりと認識しましょう。

【創立五十周年の際に作られた冊子「五十年のあゆみ」の抜粋】

昭和 10 年代は、日本が急速に軍事化の道を歩みはじめたときであった。昭和 15 年 6 月には、文部省は修学旅行の自粛を通達、18 年全面中止するなど、教育面においても大きな影響が出始めていた。

松浦昇平先生はあえてこの昭和 15 年を学校設立元年と位置づけ、4 月には現在地、世田谷区北沢に校地を定める。当時この辺りは民家もまばらで、特にここは荒地で、一面、熊笹や雑草が生い茂っていた。学校設立の理想に燃える先生は、自らも現場に立ち、鍬、シャベルを手にして地ならしを行い、校庭となる地の整備に力を注いだ。また、校舎設立のための資材探しに奔走する。ついには新聞広告だけをたよりに埼玉県飯能に工場の寮の解体材を求めた。

こうした努力が実り、翌 16 年 4 月「松蔭女学校」は創立される。先生は全日制だけでなく、昼間学ぶことのできない者にも勉学の機会を与えるべく夜間部を併設した。先生の教育への志はあくまで深かった。しかしながら同年 12 月には、太平洋戦争が始まり、内外の情勢は混沌とするばかりであり、学園をとりまく環境も厳しいものがあった。また先生も草創期ゆえの苦労を重ねる。

昭和 20 年 8 月に、日本の敗戦をもって第二次世界大戦は終了する。年を追うごとに民主化は進み、教育面においても 23 年の学制改革を契機に新しい教育のあり方が模索され始めた。

しかし、私学経営にとってこの時代は最も苦しいときであった。当時世相は乱れ、社会不安はつのり、国民もまた、衣食住ともに困窮を極めていた。そのような中で、松蔭学園は昭和 23 年 4 月には新たに「松蔭幼稚園」を開園し、《知行合一》の教育理念のもとに一貫教育の基礎作りを推し進めていった。学園が学校としての形態を確立するのは、昭和 30 年代に入ってからともいえるが、この間においても先生の教育に対する情熱は少しの陰も見られず、「実践の人」といわれるとおり、当時まだ至難だった学校への電話敷設の実現をも果たしたり、また自ら常に箒をとり校舎の内外を掃いていたという。

※ 本校の沿革については、学校HPでも閲覧できます。ぜひご覧ください。

学園のあゆみ － 学校法人 松蔭学園 松蔭中学高等学校 (shoin.ed.jp)